

泰平の谷間の生と死

フレイガイドジャーナル社

一二〇〇円

「この写真と御覧になりましたか？全部？
 どういう気持ちですか？どう思いますか？
 この地域に一五年暮らして、このように
 な様子が、この二つの版で、より具体的に
 に、よりひどい状態で毎日見えますのに
 ……いい写真だと思えます。ニヤヤク、スミ
 ……この写真集は、釜ヶ崎の孤立化を打ち
 やぶる一つの武器である。稲垣浩
 ……釜ヶ崎で生きている人間の「愛」と「怒り」
 と「悲しみ」を、心のレンズでおとここと
 らえ、権力者、おごりたかぶる者、差別
 する人々を「告発」しているといつてよ
 いだろう。それだけ言葉を手段を持たない
 人々の声でもあふく全開の愛用。ともかく、
 釜ヶ崎の現状が主眼の写真集だ。」

イ

紹介

の

本

釜ヶ崎にも子供達がいる。單身者が多
 いといわれる労働者の中にも、家族、子
 供と一緒に生活している者がいる。

施設に預けたものの力さびしくなり、子
 供を釜に連れてきたおれに遠方に暮ら
 していた人。そんな父親や子供達の相談相
 手としておれりん小中学校のケースワ
 ーカをやつておられたのが小柳さんだ。
 よく子供にこきりと説かれたり、一統
 に逆ぼうとこしている労働者をみかける。
 そくて、時には自分の思うままにならぬ
 子供達を追いかけまわす人を見かける。
 子供達だって大変なんだ。この本を説
 人でつくづくそう思った。それをよく知
 って子供達とつきあいたいものだ。

田畑書店 一六〇〇円

小柳伸顕 著

教育以前

おれりん小中学校物語

ぶらり瓢

単 一 朝日新聞・声欄より

政岡干城

建設現場に安全を（特・10・25付）

最近では高層ビル工事が多いために、転落
 などによる死亡事故がふえた。どこの工事
 現場でも安全第一の標識板が出ているが、私
 が作業に行った所では三十分二回も事故
 があつた。一人は九階から転落し、一人は
 地下ではあるが血まみれになって担架で運
 ばれる始末である。

転落事故は高い所で仕事をする本職、素
 人を問わず、下請けの作業員が低賃金のた
 めに流動性が激しいことにもあるが、それ
 よりも元請け会社のもうけ主義と安全対策
 費の使い惜しみすることが第一の原因と思
 われる。安全第一では仕事がかどらず、
 死人が出れば金を出すのが安いと考えてい
 るような気がする。これは私の考えすぎか

そこれないが、戦争中に中国人や朝鮮人を
 虐殺した事を調べてみると、今では一流の
 建設会社の名前が出てくるのも現在の事故
 多発につながるように思えてならない。

また、同じこの工事現場で昨秋一人の労働
 者の死亡事故があつたが、身元不明で元請
 け会社からの見舞金などは一切無用であつ
 た。建設現場に働く土方の世界ではひとり
 そのや匿名者も少なくなく、会社にとつて
 は好都合である。それはともかく、何より
 も本当の安全第一が確保されなければなら
 ない。

立派に見える人が冤罪働く世相悲し

（53・1・14付朝日新聞の殺人に思う特集）
 私が持っている新聞の切り抜き帳に、現
 職警官の不祥事ともいうべき項目のページ

東京での女子大生殺しの警官のことで改
めてそのヤージを見ると、二年前から何気
なくはりつけたものが十二枚もたまってい
る。「暴力団と黒い交際、署長を解任し、○
しの下着を盗ちし、婦人警官の万引」等で、
他にもいろいろある。それらの警官を「二
つとり処分」していたものが二枚あり、上司
の話を「今後はエリを正す」が三枚もある。
切り抜き帳からはづれた分だけ切り忘れた分
を合すと相当の数になるだろう。

いづれも思ふことだが、いまの世の中、だ
れが荷をすゝるか知らない。立派そうな人
物でも立派なことを考えているとは限らな
い。不當表示のともいえるのではなからう
か。

また、テレビで見える野生動物の世界のよ
うに、強い者勝ちの世の中では困るのではある
少量でも売る露店商法守れ（お、４、３付）
大阪市の西いりん地区で一人のおばさん

り四年ぶりに二千七百円から四千百円にア
ツクされる。そのために、大阪市西成区に
あるあいらんセンターのぬく屋には、もう
半月も前から五月一日より値上げしたのは
り紙が出ていた。ぬく代だけでなく、どや
代も値上げする代までもが値上げされる気
配なのだ。

アフレ手当とは、二ヶ月にわたって二十
八日以上就労してはじめて資格が得られる。
不況のためにその資格が得られない労働者
も多くいる。それに低賃金だ。ある労働者
が悲しいのでこういう。「天王寺のぬし屋
の方があいらん地区より安い。定期券を買
つて毎日くいに行こうか。」笑ひごとでない。
私も同感だ。天王寺まで行けばタイムサー
ビスではあるが安い。テーブルに花も生け
てあった。

あいらん地区は労働者の街といわれながら、値上げばかりで飯の盛りも少なくなつた。大盛でも女學生がうづほだ。林芙

かき店では糸に一本の針を付けて売っている。
タオルや石ケンも売っているりで、小間物
屋さんというべきだろう。寒い朝でも路上
にゴザを敷いて品物を並べている。いまだ
き針に針一本を付けて売ってくれる店はな
いので、労働者にとっては便利でありがた
い。何か労働者の母親がわりのような気も
する。正直云ってこんなものを売ってもう
かるのかと思うが東京の風俗そのものであ
る。

ついでに書けば、あいりん地区では以前はどこの米屋さんでも二合三合入りリッ袋を置いてあった。古新聞に包んであつても、人情味があった。時代の流れといつか、今はそんな面倒なことはなくなつた。五合入りはさがせば売つていゝが、労働者にとつては不便でしかたがない。裏町の風俗、人情を大切にしておいてほしいものだ。

アレ手当は上がるけど（マ・タ・30付）
日雇い労働者のアレ手当が五月一日よ

美子の「放浪記」ではないが、太の母が
 川でたりるかと思つことがある。めく屋の
 前で小鉢を数える失業者の姿はあの川で
 ある。

現場労働者の飲み水確保を（53、54、20付）
先月、大阪市の防波堤工事の仕事に行っ
たが、昼食の時に茶もなければ水もない。
五月とはいえ、夏と同じように仕事の中に
どまかいいた。いまの労働者には夏でも水
かめのない現場が多い。以前はバケツに水
を入れたあつたが、いまは夏でもそんな現
場は珍しい。

日雇い労働者は、仕事に無関心な人夫出
て廻から仕事に行くため、現場では親方不
在で水のことまで考えてくわける者がいない。
昨年の夏のことだが、日雇い労働者数人が
魚を出し合つて水を置ったことがあつた。こ
ころが、その水を元請けの監督がこつて取り
引いてくれた。監督が水を引いた以上、くら
い、力仕事をさう下請けの労働者にはそれ
以上に水が必要だ。元請けは各下請けの勞
働者が自由にのめる水を確保せよ、といひ
たい。